

# 都市再生整備計画(第4回変更)

ながつたえきしゅうへん  
長津田駅周辺地区

神奈川県 横浜市

平成25年3月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	長津田駅周辺地区	面積	52 ha
計画期間	平成 21 年度	～	平成 25 年度	交付期間	平成 21 年度	～	平成 24 年度

### 目標

駅北口再開発や駅前広場整備にあわせ、駅周辺の都市基盤の整備や文化施設の整備を行い、安全で快適な歩行者ネットワークの形成や新たな地域の文化活動の活性化を図る。

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

長津田駅は、JR横浜線、東急田園都市線及び二つの国線の乗換駅として1日約12万人の乗車人員を数える、本市北部の主要な交通結節点となっています。しかし、駅周辺は駅前広場や道路等の公共施設が未整備のまま市街地が形成されており、交通安全や防災などの面で問題になっています。また周辺の奈良、あかね台及び長津田みなみ台では大規模な土地区画整理事業が実施されており、駅の利用圏の人口増加に見合った拠点としての役割が期待されています。これらの課題に対処するため、駅北口では市街地再開発事業等による街づくりの検討を行っており、南口では駅前広場や道路の整備を、それぞれ進めています。駅北口では平成19年12月に長津田駅第一種市街地再開発事業が都市計画決定され、事業化が進められているほか、周辺の公共施設整備についても検討が進められています。また駅南口では都市計画道路長津田駅南口線の都市計画決定が平成13年に、事業認可が平成14年に行われ、事業が進められています。

### 課題

- ・駅周辺の都市基盤の整備  
(駅周辺の駅前広場や周辺道路等が未整備のため、朝夕の交通混雑等により歩車ともに通行上危険な状態にある)
- ・駅前の都市機能の集積  
(特に駅北口においては、低・未利用地が広がっており、駅前の賑わい等を生むと土地利用がされていない)
- ・特色あるまちづくりの一環としての文化芸術活動の強化  
(地域の文化活動の拠点となる施設の整備)

### 将来ビジョン(中長期)

- ・横浜市都市計画マスターplan・緑区プラン  
長津田駅周辺のまちづくり方針…「道路の整備」、「駅の利便性の向上」、「北口における市街地再開発事業の推進」
- ・横浜市中期計画  
重点事業「拠点駅周辺の整備促進」…地域の拠点として、駅前広場、駐輪場等の整備と商業、住宅、文化などの機能集積を連携して進めていく

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度		目標値	目標年度
北口バス利用者数	人/日	公共施設・駅周辺の核施設整備による北口バス利用者数の増加を集計	公共施設整備によりバス機能等が拡充することにより駅利用者が増加	0人	H20	7,000人	H26	
区民文化センターの利用者数	人/年	文化施設の整備による施設利用者数を集計	核施設の整備により、地域の文化活動機会の増加	0人	H20	75,000人	H26	
満足度調査	—	住みやすさや暮らしやすさについてアンケートを実施	都市基盤・都市機能の整備により、まちの魅力が増加する	1	H20	1.2	H26	

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
駅周辺の道路整備等により交通環境を改善し、安全で快適な歩行者ネットワークの形成を図る	市道長津田129号線拡幅整備 市道長津田164号線拡幅整備 区画街路1号線拡幅整備 長津田駅北口歩行者専用通路整備
特色あるまちづくりの一環としての文化芸術活動の活性化を図る	緑区民文化センター整備
その他	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	2,205	交付限度額	882	国費率	0.4%
うち、社会资本整備総合交付金対象事業 計	2,205	うち、社会资本整備総合交付金対象事業 計	882		
うち、地域自主戦略交付金対象事業 計	0	うち、地域自主戦略交付金対象事業 計	0		

(金額の単位は百万円)

基幹事業①社会资本整備総合交付金 事業 細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	交付対象事業費		
					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分	
道路	市道長津田129号線拡幅整備	横浜市	直	約170m	平成19年度	平成24年度	平成21年度	平成24年度	658	658	658	658	
	市道長津田164号線拡幅整備	横浜市	直	約150m	平成19年度	平成24年度	平成21年度	平成24年度	176	176	176	176	
	区画街路1号線拡幅整備	横浜市	直	約150m	平成19年度	平成24年度	平成22年度	平成24年度	48	48	48	48	
公園													
古都及び緑地保全事業													
河川													
下水道	—		—	—									
駐車場有効利用システム	—		—	—									
地域生活基盤施設	人工地盤	長津田駅北口歩行者専用道路	横浜市	直	約50m	平成24年度	平成24年度	平成24年度	平成24年度	800	280	280	280
高質空間形成施設					—								
高次都市施設	地域交流C	緑区民文化センター整備	横浜市	直	約3000m <sup>2</sup>	平成22年度	平成24年度	平成24年度	平成24年度	1,043	1,043	1,043	1,043
既存建物活用事業													
土地区画整理事業													
市街地再開発事業													
住宅街区整備事業													
地区再開発事業													
パリアフリー環境整備促進事業													
優良建築物等整備事業													
	複点開発型												
住宅市街地	沿道等整備型												
総合整備事業	密集住宅市街地整備型												
	耐震改修促進型												
街づくり環境整備事業													
住宅地区改良事業等													
都心共同住宅供給事業													
公営住宅等整備													
都市再生住宅等整備													
防災街区整備事業													
合計									2,725	2,205	2,205	2,205	

…A'

基幹事業②地域自主戦略交付金 事業 細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	交付対象事業費	
					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分
道路												
公園												
河川												
下水道	—		—	—					0	0	0	0
合計									0	0	0	0

…A"

※交付期間内事業期間は平成24年度以降を記載

※H24以降を記載

※H24以降分を記載

## 基幹事業 総計(①+②)

総計									2,725	2,205	2,205	0	2,205	$\cdots A=A'+A''$
----	--	--	--	--	--	--	--	--	-------	-------	-------	---	-------	-------------------

## 提案事業①社会資本整備統合交付金

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費		うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分			
地域創造支援事業															
事業活用調査															
まちづくり活動推進事業		—		—											
合計										0	0	0	0	0	0

## 提案事業②地域自主戦略交付金

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費		うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分			
地域創造支援事業															
事業活用調査															
まちづくり活動推進事業		—		—											
合計										0	0	0	0	0	0

※交付期間内事業期間は平成24年度以降を記載

※H24以降を記載

※H24以降分を記載

## 提案事業 総計(①+②)

総計									0	0	0	0	0	$\cdots B=B'+B''$
----	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	---	---	-------------------

## (参考)関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いすれかに○)				事業期間		全体事業費
					直轄	補助	地方単独	民間	開始年度	終了年度	
市街地再開発事業	長津田駅北口地区市街地再開発事業	横浜市住宅供給公社	国土交通省	約2.2ha	○				平成19年度	平成25年度	18,518
交通安全施設整備事業	長津田駅南口線整備事業	横浜市	国土交通省	140m	○				平成14年度	平成28年度	5,880
交通安全施設整備事業	市道長津田第34号、129号線道路整備事業	横浜市	—	約300m		○			平成22年度	—	500
交通安全施設整備事業	長津田駅南口パリアフリー事業	横浜市	—	1箇所	○				平成22年度	平成23年度	200
交通安全施設整備事業	区画道路改修	横浜市	—	約60m		○			平成22年度	平成24年度	12
合計											25,090

合計(A+B) 2,205

都市再生整備計画の区域

長津田駅周辺地区(神奈川県横浜市)

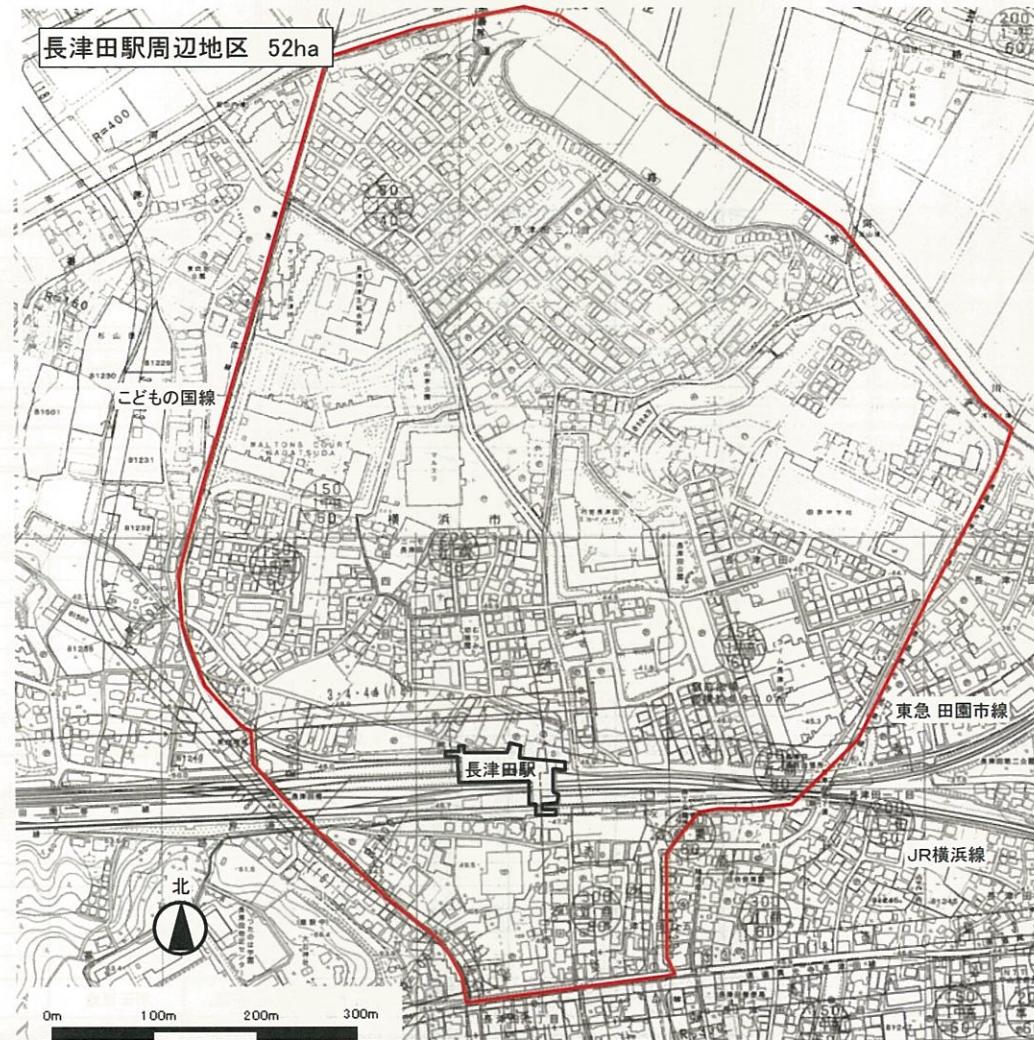
面積

52 ha

区域

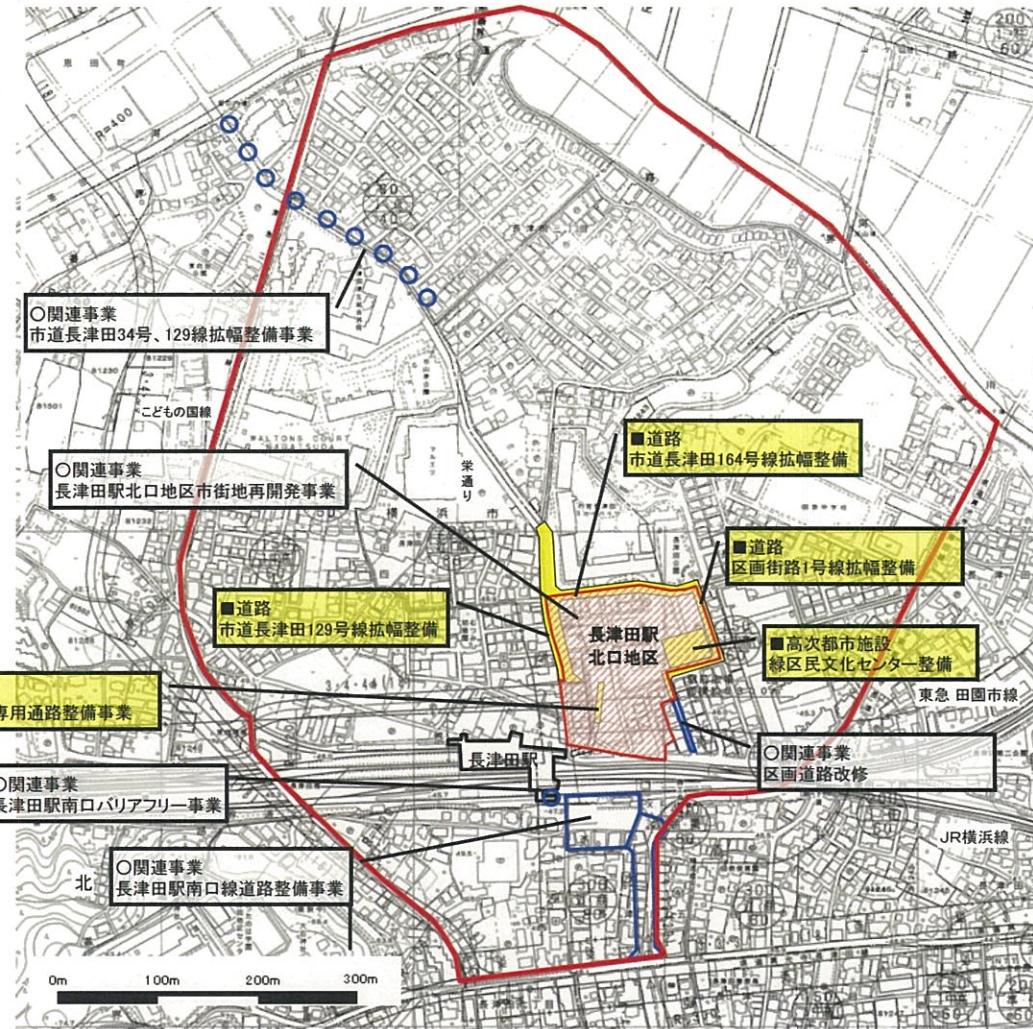
横浜市緑区長津田四丁目の全部と長津田二丁目、三丁目、五丁目の一部

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



## 長津田駅周辺地区(神奈川県横浜市) 整備方針概要図

目標	代表的な指標	北口バス利用者数 (人/日)	0人	( 20年度) →	7,000人	( 26年度)
		区民文化センターの利用者数 (人/年)	0人	( 20年度) →	75,000人	( 26年度)
		満足度調査 (—)	1	( 20年度) →	1.2	( 26年度)



凡 例
■ 基幹事業
○ 関連事業

# 都市再生整備計画 事後評価シート(原案)

## 長津田駅周辺地区

平成25年10月

神奈川県横浜市

## 様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	長津田駅周辺地区			面積	52ha				
交付期間	平成21年度～平成24年度	事後評価実施時期	平成25年度	交付対象事業費	2,205百万	国費率	0.4						
事業名													
基幹事業 提案事業		市道長津田129号線拡幅整備、市道長津田164号線拡幅整備、区画街路1号線拡幅整備、区画道路改修、緑区民文化センター整備											
満足度調査													
1)事業の実施状況													
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	区画道路改修					市による単独事業にて実施したため。		満足度調査の指標に関連するが、事業全体を考慮した結果、指標及び数値目標は据え置くこととする。				
	提案事業	満足度調査					最終年度に残工事があるため効果把握の時期として適切でないため。		指標及び数値目標への影響なし。				
	新規事業	基幹事業	長津田駅北口歩行者専用通路					より安全で快適な歩行者ネットワークを構成するため。					
	提案事業												
交付期間の変更	当 初	平成21年度～平成25年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変 更	平成21年度～平成24年度											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況													
指 標			従前値	目標値		数 値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定期			
指標1	北口バス利用者数		人／日	0人	H20	7,000人	H26	モニタリング	測定不能	—	あり	事後評価の確定時点においてバス運行が実施されない見込みのため測定不能であるが、バス運行が可能な都市基盤や区民文化センターの整備に伴うバス利用者数の増加は見込まれる。ただ、運行予定のバス事業者との調整の中で運行本数が想定未満のものとなり目標が達成できない見込みとなつた。	平成27年3月
										なし	●		
指標2	区民文化センターの利用者数		人／年	0人	H20	75,000人	H26	モニタリング	75,027人	○	あり	当初計画どおりの区民文化センターが整備されたことによる。平成25年10月5日より開業しており、地域の文化活動機会の増加が見込まれる。	平成27年6月
										なし			
指標3	満足度調査		—	1	H20	1.2	H26	モニタリング	1.2046	○	あり	歩道の設置されたゆとりある道路環境が生まれたことで満足度が向上した。区民文化センターの開業、歩行者専用通路の完成に伴い、満足度のさらなる向上が見込まれる。	平成27年3月
										なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況										効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定期		
指 標			従前値	目標値		数 値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定期			
その他の数値指標1	北口バス運行に伴う満足度調査		—	0	H20	—	モニタリング	—	+0.3166	—	これまでバス運行のなかった地区であったことから、地区近隣の歩行圏内の住民への調査においてもプラスの評価数値がており、一定程度の満足度が得られている。遠方のバス利用がより多く想定される方々にはさらに高い満足度が見込まれる。	平成27年3月	
4)定性的な効果発現状況										今後の対応方針等			
5)実施過程の評価										今後の対応方針等			
モニタリング													
住民参加プロセス		①住民参加によるアート作品の設置 ②現場見学会 ③事業区域開放による地元商店街活動支援 ④地元自治会への事業進捗報告											
持続的なまちづくり体制の構築													

## 様式2-2 地区の概要

長津田駅周辺地区(神奈川県横浜市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値		目標値		評価値	
駅北口再開発や駅前広場整備にあわせ、駅周辺の都市基盤の整備や文化施設の整備を行い、安全で快適な歩行者ネットワークの形成や新たな地域の文化活動の活性化を図る。	北口バス利用者数 区民文化センターの利用者数 満足度調査 北口バス運行に伴う満足度調査	単位: 人/日	0 0 1 0	H20 H20 H20 H20	7,000 75,000 1.2 H20	H26 H26 H26 H25	測定不能 75,027 1.2046 +0.3166 H25
■市道長津田129号線拡幅整備		■市道長津田164号線拡幅整備					
■長津田駅北口歩行者専用通路整備事業		■区画街路1号線拡幅整備					
整備中(イメージバース)		■緑区民文化センター整備					
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅周辺の道路網が整備され、朝夕の交通混雑等が改善し歩車ともに通行の安全性が向上した。</li> <li>これまでの駅前が低、未利用だった状況が改善し、都市型住宅による約200戸の集積された。また商業施設や区民文化センターができることで駅前の賑わいや文化的機能が創出された。</li> <li>地域の文化活動の拠点となる区民文化センターが整備され、特色のあるまちづくりにも繋がる文化芸術活動が始まっている。</li> </ul>						
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「市道長津田34号、129号拡幅整備事業」や「長津田駅北口線」整備など、周辺道路について必要に応じて整備可能な場所を着実に整備していく。</li> <li>区民文化センターを地域文化の振興を図る拠点として地域社会全体にアートをもって貢献できるよう活用していく。</li> </ul>						

# 都市再生整備計画 事後評価シート(原案) (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区的次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

## (1) 成果の評価

### 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道長津田129号線拡幅整備	516	約100m	658	約170m	交通管理者との協議による事業区域の延伸。電線地中化の取りやめ。	満足度調査の指標に関連するが、事業全体を考慮した結果、指標及び数値目標は据え置くこととする。	●	
道路	市道長津田164号線拡幅整備	188	約150m	176	約150m	電線類地中化を取りやめ、事業費を精査した結果減額します。	満足度調査の指標に関連するが、事業全体を考慮した結果、指標及び数値目標は据え置くこととする。	●	
道路	区画街路1号線拡幅整備	50	約150m	48	約150m	詳細設計により、工事費が減額されたため。	指標及び数値目標への影響はなし	●	
道路	区画道路改修	5	約60m	—	—	H24年に計画変更し、削除。市単独事業として実施したため、関連事業とします。(平成24年第2回変更)	満足度調査の指標に関連するが、事業全体を考慮した結果、指標及び数値目標は据え置くこととする。	—	—
公園									
古都及び緑地 保全事業									
河川									
下水道									
駐車場有効利 用システム									
地域生活基盤 施設	長津田駅北口歩行者専用通路	—	—	280	約50m	H24年に計画変更し、追加。関連事業に位置づけ検討していた「長津田駅北口歩行者専用通路」の施設計画が定まったため。(平成24年第2回変更)	満足度調査の指標に関連するが、事業全体を考慮した結果、指標及び数値目標は据え置くこととする。	●	
高質空間形成 施設									
高次都市施設	緑区民文化センター整備	681	約3000m <sup>2</sup>	1,043	約3000m <sup>2</sup>	事業費を精査した結果、事業費の増加をする必要が生じたため。	指標及び数値目標への影響はなし	●	
既存建造物活 用事業									
都市再生交通 拠点整備事業									
土地地区画整理 事業(都市再 生)									
住宅市街地 総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
パリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

## 提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業									
事業活用調査	満足度調査	2	—	—	—	最終年度に残工事があるため効果把握の時期として適切でないため削除	指標及び数値目標への影響なし	—	—
まちづくり活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

## (参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
市街地再開発事業	長津田駅北口地区市街地再開発事業	20,170	18,518	平成19年度～24年度	平成19年度～26年度	事業継続中	—	
交通安全施設整備事業	長津田駅南口線整備事業	5,860	5,860	平成14年度～23年度	平成14年度～28年度	事業継続中	—	
交通安全施設整備事業	市道長津田第34号、129号線道路拡幅事業	500	500	平成22年度～	平成22年度～	事業継続中	—	
交通安全施設整備事業	長津田駅南口バリアフリー事業	200	200	平成22年度～22年度	平成22年度～23年度	エレベーター施設が平成24年3月に竣工、同年4月より供用開始	—	
交通安全施設整備事業	区画道路改修	—	12	—	平成22年度～24年度	平成24年5月に竣工	—	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)	目標値 (ウ)	目標年度 (エ)	数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無 あり なし
			基準年度	基準年度				モニタリング	モニタリング	モニタリング	モニタリング	モニタリング	
指標1	北口バス利用者数	人/日	事後評価の確定時点において、バス運行が実施されない見込みのため計測不能となる。	—	—	0	H20	7,000	H26	モニタリング	モニタリング	モニタリング	●
指標2	区民文化センターの利用 者数	人/年	新設のため過去のデータがなく、また計測時点では開業していないため、当該施設のデータは計測できない。 よって、市内の類似施設である磯子区民文化センターの初年度の年間利用者数をもとに利用者数を類推し評価値とする。	—	—	0	H20	75,000	H26	モニタリング	モニタリング	モニタリング	
指標3	満足度調査	—	事業区域周辺の町内会の協力を得て、地区住民(緑区長津田二・三・四丁目住の方)を対象としたアンケート調査を行う。 整備前後の「写真」「イメージパース」を示し、住みやすさ暮らしやすさについて質問し、5点満点で評価してもらう。	—	—	1	H20	1.2	H26	モニタリング	モニタリング	モニタリング	
指標4										モニタリング	モニタリング	モニタリング	
指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)							その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)					
指標1	—							事後評価の確定時点において、バス運行が実施されない見込みのため、測定不能となった。					
指標2	概ね当初計画どおりに文化施設の整備が行えたため、目標達成度は「○」であり、達成見込みも「あり」とした。							市内同規模の類似施設により見込み値を求めている。					
指標3	都市基盤の整備に関し完成状況をイメージし回答する部分もあったが、目標値を上回る結果が得られたため目標達成度は「○」であり、アンケート時点より整備が進み実感が伴うことで、より満足度はさらに向上すると考えられるため達成見込み「あり」とした。												
指標4													

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向より改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標		データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)	数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
基準年度	基準年度		基準年度	基準年度				
その他の数値指標1	北口バス運行に伴う満足度調査	事業区域周辺の町内会の協力を得て、地区住民(緑区長津田二・三・四丁目住の方)を対象としたアンケート調査を行う。バスが運行される整備後の「イメージバス」を示し、バス運行に伴う期待度について質問し、-2、-1、0、+1、+2点までの5段階で評価してもらう。	—	—	0	H20	モニタリング 事後評価 確定 見込み	+0.3166 現在のバスの運行計画から類推すると、指標1の北口バス利用者数が当初計画どおりには望めないため。 目標を定量化する指標「北口バス利用者数」に関連する
その他の数値指標2							モニタリング 事後評価 確定 見込み	
その他の数値指標3							モニタリング 事後評価 確定 見込み	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- 街が新しく生まれ変わることへの期待感が地域にもたらされ、事業は街の活性化の一躍を担った。
- 道路整備により歩道が広くなり安全で安心できる歩行環境の実感が地域にもたらされている。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
住民参加によるアート作品の設置 (事業区域内の伐採材を活用し、小中学生が自分を花に例えるイメージで大きなフラワーリースを作成、設置)	予定どおり実施した	【実施頻度】30回程度の活動 【実施時期】平成23年度 【実施効果】旧長津田公園の木を使ったことで地域の歴史がつながり、一年間に渡る地域住民の手によるアート作品の製作を行うことで愛着のある作品が完成した。完成作品は区民文化センターのホワイエと再開発ビルの商業施設のホールの2箇所に設置され、地域に根付いている。	市民主体のまちづくり活動への支援
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
現場見学会	予定どおり実施した	【実施頻度】計3回 【実施時期】平成22～24年度 【実施効果】まちづくりへの関心をもってもらう機会となった。	
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
事業区域開放による地元商店街活動支援	予定どおり実施した	【実施頻度】計3回 【実施時期】平成22～24年度 【実施効果】地域のコミュニケーションが向上した。	市民主体のまちづくり活動への支援
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
地元自治会への事業進捗報告	予定どおり実施した	【実施頻度】毎月1回 【実施時期】平成21～24年度 【実施効果】事業への理解を図ることができた。	
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			

### (3) 効果発現要因の整理

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標3		その他の数値指標1		指標〇	
指標名		区民文化センターの利用者数		満足度調査		北口バス運行に伴う満足度調査			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	市道長津田129号線拡幅整備	○	当初計画どおりの区民文化センターが整備されたことによる。平成25年10月5日より開業しており、地域の文化活動機会の増加が見込まれる。	○	歩道の設置されたゆとりある道路環境が生まれたことで満足度が向上した。区民文化センターの開業、歩行者専用通路の完成に伴い、満足度のさらなる向上が見込まれる。	○	これまでバス運行のなかった地区であったことから、地区近隣の徒步圏内の住民への調査においてもプラスの評価数値がでており、一定程度の満足度が得られている。遠方のバス利用が想定される方にはより高い満足度が見込まれる。		
	市道長津田164号線拡幅整備	○		○		○		○	
	区画街路1号線拡幅整備	○		○		○		○	
	長津田駅北口歩行者専用通路	○		○		○		○	
	緑区民文化センター	○		○		○		○	
提案事業									
関連事業									

※指標改善への貢献度

- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	地域文化の振興を図る拠点として地域社会全体にアートをもつて貢献できるよう活用していく。	調査に伴い地域の方々からいただいた意見を今後のまちづくりの参考にしたい。	調査に伴い地域の方々からいただいた意見を今後のまちづくりの参考にしたい。	

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標○			指標○			指標○		
指標名		北口バス利用者数											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	市道長津田129号線拡幅整備	△	事後評価の確定時点においてバス運行が実施されない見込みのため測定不能であるが、バス運行が可能な都市基盤や区民文化センターの整備に伴うバス利用者数の増加は見込まれる。ただ、運行予定のバス事業者との調整の中で運行本数が想定未満のものとなり目標が達成できない見込みとなった。	II									
	市道長津田164号線拡幅整備	—											
	区画街路1号線拡幅整備	—											
	長津田駅北口歩行者専用通路	△											
	緑区民文化センター	△											
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度

- ××:事業が効果を発揮せず、  
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×:事業が効果を発揮せず、  
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △:数値目標が達成できなかつた中でも、  
ある程度の効果をあげたと思われる。
- ー:事業と指標の間に、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類I:内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類II:外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類III:外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類IV:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	区民文化センターを地域文化の振興を図る拠点として地域社会全体にアートをもって貢献できるよう活用し、バス利用者数の増加を図る。			
------------------	--	--	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

## 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
駅周辺の都市基盤の整備	駅周辺の道路網が整備され、朝夕の交通混雑等が改善し歩車ともに通行の安全性が向上した。	周辺道路に未整備の部分があるため、広域的な道路ネットワークの形成が課題	
駅前の都市機能の集積	これまでの駅前が低、未利用だった状況が改善し、都市型住宅による約200世帯の集積された。また商業施設や区民文化センターができることで駅前の賑わいや文化的機能が創出された。	なし	なし
特色のあるまちづくりの一環としての文化芸術活動の強化	地域の文化活動の拠点となる区民文化センターが整備され、特色のあるまちづくりにも繋がる文化芸術活動が始まっている。	なし	なし

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を  
添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	駅周辺の交通環境の安全性確保	道路管理者による適切な維持管理。	なし
	区民文化センターによる文化的機能の創出	区民文化センターの積極的活用により、活発な文化芸術活動の発展を目指す。	なし

B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	広域的な道路ネットワークの拡充	周辺道路の未整備部分について、必要に応じて整備可能な場所を着実に整備していく。	・街路事業 ・道路事業 ・土地区画整理事業

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■ 様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

- 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
- 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
- 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
- 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
- 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

#### 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に問わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。

・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標	単位	従前値	目標値	評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無
				年度	年度		
指標1 北口バス利用者数	人／日	0	H20	7,000	H26	確定	あり
						見込み	なし
指標2 区民文化センターの利用	人／年	0	H20	75,000	H26	確定	あり
						見込み	なし
指標3 満足度調査	—	1	H20	1.2	H26	確定	あり
						見込み	なし
指標4			H	H		確定	あり
						見込み	なし
指標5			H	H		確定	あり
						見込み	なし

フォローアップ計画		
予定期	計測方法	その他特記事項
平成27年3月	長津田駅北口でバス運行するバス会社より、一日の利用者数を提供可能な範囲でヒアリングする。	
平成27年6月	緑区区民文化センターの平成26年度一年間の利用者数を集計する。	
平成27年3月	長津田駅周辺の地区住民「1000世帯」を対象に郵送調査法により実施する。	

その他の数値指標1 北口バス運行に伴う満足度調査	—	0	H20	確定		平成27年3月	長津田駅周辺の地区住民「1000世帯」を対象に郵送調査法により実施する。		
				見込み	●				
その他の数値指標2			H	確定					
				見込み					
その他の数値指標3			H	確定					
				見込み					

平成27年3月	長津田駅周辺の地区住民「1000世帯」を対象に郵送調査法により実施する。	

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目	要因分析		次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	市内の類似事例を参考に満足度調査の数値目標を適切に設定できうまくいった。	数値目標について、十分に検討を行う必要がある。
	うまくいかなかつた点	新規路線のバス運行など、別の事業者による判断が影響する指標については、当初計画の目標設定がうまくいかなかつた。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまくいかなかつた点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	積極的な住民参加により、地域の歴史的文脈を引き継ぐことができうまくいった。 長期に渡る工事過程において住民参加等を図ることによって、事業への理解を図ることができた。	
	うまくいかなかつた点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかつた点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかつた点		

## 添付様式6－参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

- ・今後の交付金の活用予定  
平成26年度より、今回事後評価を実施する地区の次期計画として、「金沢八景駅周辺地区」を実施する。
- ・今後の事後評価を予定する地区  
平成26年度については実施する地区はありません。

## (5) 事後評価原案の公表

## 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	ホームページに掲載	平成25年10月25日～平成25年11月8日	平成25年10月25日～平成25年11月8日		
広報掲載・回覧・個別配布	広報よこはまみどり区版にて市のホームページ及び窓口で原案を公表している旨を掲載	平成25年10月1日発行 広報よこはま緑区版			
説明会・ワークショップ				担当課への電話、FAX	都市整備局企画課
その他	都市整備局企画課・市街地整備推進課での閲覧による公表	平成25年10月25日～平成25年11月8日	平成25年10月25日～平成25年11月8日		

## (6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	室田昌子委員(所属:東京都市大学)、金子忠一委員(所属:東京農業大学)、張櫻馨委員(所属:横浜市立大学)				
その他 の委員		平成25年11月22日	財政局公共施設・事業調整課	横浜市附属機関設置条例	横浜市公共事業評価委員会

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	
	成果の評価	
	実施過程の評価	
	効果発現要因の整理	
	事後評価原案の公表の妥当性	
	その他	
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	
	フォローアップ	
	その他	
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にして下さい。

## (7) 有識者からの意見聴取

### 添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
—	—	—

有識者の意見	
--------	--

# まちづくり交付金 事後評価方法書

長津田駅周辺地区

平成 25 年 6 月

神奈川県横浜市

(このページは、提出の際には添付する必要はありません。)

## 目 次

(1) 成果の評価 .....	2
1) 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況 .....	2
2) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測 .....	4
(2) 実施過程の評価 .....	5
1) モニタリングの実施状況の確認 .....	5
2) 住民参加プロセスの実施状況の確認 .....	5
3) 持続的なまちづくり体制の構築状況の確認 .....	5
(3) 効果発現要因の整理 .....	6
(4) 今後のまちづくり方策の作成 .....	6
(5) 事後評価原案等の公表 .....	6
(6) まちづくり交付金評価委員会の審議 .....	6
(7) その他の機会における有識者からの意見聴取の予定 .....	6
(8) 事後評価に必要な経費に関わる予算措置の状況 .....	6

### ※ 記入にあたっての留意事項

方法書提出様式の記入にあたっては、下記の点に留意してください。

1. 事後評価ならびにフォローアップの作業が円滑かつ確実に進められるよう、事後評価に関わる各評価項目の計測又は確認の時期、主体、手法等を具体的に記載してください。
2. 記入項目の詳細や記入例については「方法書作成の手引き」を参照してください。
3. 数値及び文章は、適宜、欄（枠）を拡張するなどして記入してください。

<b>指標 1： 北口バス利用者数</b>					
<b>A：事前評価時の『従前値』の求め方</b>					
①従前値の基準時点	都市再生整備計画作成時（平成 20 年度）				
②実施主体	都市整備局市街地整備推進課				
③計測手法	<p>長津田駅北口においては、公共施設が未整備の状況では、バス利用がないため、「従前値」は 0 と設定する。</p> <p>なお、都市再生整備計画上、駅利用者数の増加により北口バス利用者数を評価すると定めたが、より実態に近い利用者数計測のため計測手法を修正する。</p>				
<b>B：事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方</b>					
④計測時期					
⑤実施主体					
⑥データの計測手法	<p>事後評価の確定時点において、バス運行が実施されない見込みのため、計測不能となる。</p> <p>なお、関連する評価指標と考えられる「北口バス運行に伴う満足度調査」を「その他の数値指標による効果発現の計測」として実施する。</p>				
⑦評価値の求め方					
⑧確定／見込みの別	<table border="1"> <tr> <td></td><td>確 定</td></tr> <tr> <td></td><td>見込み</td></tr> </table>		確 定		見込み
	確 定				
	見込み				
<b>C：フォローアップ時の『確定値』の求め方</b>					
⑨フォローアップの必要性	<table border="1"> <tr> <td>●</td><td>あ り</td></tr> <tr> <td></td><td>な し</td></tr> </table>	●	あ り		な し
●	あ り				
	な し				
⑩計測時期	都市基盤・都市機能の整備の終了（平成 26 年 3 月）から一年後の平成 27 年 3 月				
⑪実施主体	都市整備局市街地整備推進課				
⑫計測手法	長津田駅北口で運行するバス会社より、一日の利用者数を提供可能な範囲でヒアリングし、その値を持って確定値とする。				

指標2：区民文化センターの利用者数					
<b>A：事前評価時の『従前値』の求め方</b>					
①従前値の基準時点	都市再生整備計画作成時（平成20年度）				
②実施主体	都市整備局市街地整備推進課				
③計測手法	交付終了年度である平成25年度に整備が終了する施設であることから、事前評価時の「従前値」は0と設定した。				
<b>B：事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方</b>					
④計測時期	平成25年6月				
⑤実施主体	政策局統計情報課				
⑥データの計測手法	計測時点では開業しておらず、また過去のデータもないため、市内の類似施設である磯子区区民文化センターの整備事例をもとに年間利用者数を類推することとする。				
⑦評価値の求め方	新規施設のため過去のデータがなく、また計測時点では開業していないため、データを計測することができない。 よって、市内の類似施設である磯子区区民文化センターが平成17年2月に整備後、初年度にあたる平成17年度に年間利用者数が「75,033人※」であった事例（1m <sup>2</sup> あたり約25人（整備面積：2999.72m <sup>2</sup> ））をもとに、当該整備施設（緑区区民文化センター（整備面積2999.51m <sup>2</sup> ））の評価基準日【平成25年3月31日】の利用者数を類推し、その値を評価値（見込みの値）とする。※第85回横浜市統計書による				
⑧確定／見込みの別	<table border="1"> <tr> <td></td><td>確 定</td></tr> <tr> <td>●</td><td>見込み</td></tr> </table>		確 定	●	見込み
	確 定				
●	見込み				
<b>C：フォローアップ時の『確定値』の求め方</b>					
⑨フォローアップの必要性	<table border="1"> <tr> <td>●</td><td>あり</td></tr> <tr> <td></td><td>なし</td></tr> </table>	●	あり		なし
●	あり				
	なし				
⑩計測時期	交付終了後1年を経過した時点（平成27年3月）から三か月後の平成27年6月				
⑪実施主体	緑区地域振興課				
⑫計測手法	緑区区民文化センター館開業の次年度（平成26年度）一年間の利用者数（平成27年3月31日時点まで）を三か月かけて集計し、その値を持って確定値とする。				

指標3：満足度調査							
<b>A：事前評価時の『従前値』の求め方</b>							
①従前値の基準時点	都市再生整備計画作成時（平成20年度）						
②実施主体	都市整備局市街地整備推進課						
③計測手法	基準時点の住みやすさや暮らしやすさを1.0として従前値として設定した						
<b>B：事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方</b>							
④計測時期	平成25年9月						
⑤実施主体	都市整備局市街地整備推進課						
⑥データの計測手法	<p>計測時点で都市基盤・都市機能の整備が終了しておらず、計画完了に伴う住みやすさ、暮らしやすさを地域に還元できる状況ではないため、住民満足度を計測することが困難である。</p> <p>そこで、事業区域周辺の町内会の協力を得て、地区住民※「50世帯」を対象とした簡易的なアンケート調査をおこなう。</p> <p>*地区住民は緑区長津田二・三・四丁目住の方から抽出する</p>						
⑦評価値の求め方	<p>整備前後の「図面」「航空写真」「イメージパース」を示し、住みやすさや暮らしやすさについて質問し、5段階（5点満点）で評価してもらう。</p> <p>整備前の平均値を1とし、整備後の平均値と比較することによって得た簡易調査結果を評価基準日【平成26年9月30日】における評価値（見込みの値）とする。</p>						
⑧確定／見込みの別	<table border="1"> <tr> <td></td><td>確定</td><td></td></tr> <tr> <td>●</td><td>見込み</td><td></td></tr> </table>		確定		●	見込み	
	確定						
●	見込み						
<b>C：フォローアップ時の『確定値』の求め方</b>							
⑨フォローアップの必要性	<table border="1"> <tr> <td>●</td><td>あり</td></tr> <tr> <td></td><td>なし</td></tr> </table>	●	あり		なし		
●	あり						
	なし						
⑩計測時期	都市基盤・都市機能の整備の終了（平成26年3月）から一年後の平成27年3月						
⑪実施主体	都市整備局市街地整備推進課						
⑫計測手法	<p>長津田駅周辺の地区住民※「1000世帯」を対象に郵送調査法による満足度調査を実施する。</p> <p>整備前後の住みやすさや暮らしやすさについて質問し、5段階（5点満点）で評価してもらう。</p> <p>整備前の平均値を1とし、整備後の平均値と比較することによって得た値を確定値とする。</p> <p>*地区住民は緑区長津田二・三・四丁目住の方から抽出する</p>						

数値指標：北口バス運行に伴う満足度調査							
記述理由	地区の駅前広場整備により、北口のバス運行が開始される。新規の公共交通導入により、地区内の満足度向上が想定され、安全で快適な都市基盤整備（目標）を表している指標としてふさわしいと考えられる。						
A：事前評価時の『従前値』の求め方							
①従前値の基準時点	都市再生整備計画作成時（平成20年度）						
②実施主体	都市整備局市街地整備推進課						
③計測手法	基準時点のバス運行に対する満足度を0として従前値として設定する。						
B：事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方							
④計測時期	平成25年9月						
⑤実施主体	都市整備局市街地整備推進課						
⑥データの計測手法	北口バスの運行開始予定が次年度となっており、計測時期におけるバス利用による駅利用者数の増加は見込めないため、事業区域周辺の町内会の協力を得て、地区住民※「50世帯」を対象とした簡易的なアンケート調査をおこなう。 ※地区住民は緑区長津田二・三・四丁目住の方から抽出する						
⑦評価値の求め方	バスが運行される北口駅前広場整備後の「図面」「イメージパース」を示し、バス運行に伴う期待度について質問し、「-2、-1、0、+1、+2」の5段階で回答してもらう。 なお、従前にはバス運行がないため、従前値は0とし、整備後の期待値によって得た簡易調査結果を評価基準日【平成26年9月30日】における評価値（見込みの値）とする。						
⑧確定／見込みの別	<table border="1"> <tr> <td>●</td><td>確 定</td><td></td></tr> <tr> <td>●</td><td>見込み</td><td></td></tr> </table>	●	確 定		●	見込み	
●	確 定						
●	見込み						
C：フォローアップ時の『確定値』の求め方							
⑨フォローアップの必要性	<table border="1"> <tr> <td>●</td><td>あり</td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>なし</td><td></td></tr> </table>	●	あり			なし	
●	あり						
	なし						
⑩計測時期	都市基盤・都市機能の整備の終了（平成26年3月）から一年後の平成27年3月						
⑪実施主体	都市整備局市街地整備推進課						
⑫計測手法	長津田駅周辺の地区住民※「1000世帯」を対象に郵送調査法による満足度調査を実施する。 整備前後の北口バス運行関連の内容について質問し、満足度を5段階（5点満点）で評価してもらう。 整備前の平均値を1とし、整備後の平均値と比較することによって得た値を確定値とする。 ※地区住民は緑区長津田二・三・四丁目住の方から抽出する						

(2) まちづくり活動の実施状況

①実施事項（※Aで、アまたはウに該当する場合に記入、イの場合には「なし」と記入）

A : 都市再生整備計画への記載状況および実施状況

- 都市再生整備計画に実施することを記載した  
 都市再生整備計画に記載しなかった  
 都市再生整備計画に記載はないが実施した

B : 実施事項（※Aで、アまたはウに該当する場合に記入、イの場合には「なし」と記入）

なし

C : 事後評価時の確認方法

①時 期

②確 認 先

③確認方法

まちづくり活動の実施状況

A : 都市再生整備計画への記載状況および実施状況

- 都市再生整備計画に実施することを記載した  
 都市再生整備計画に記載しなかった  
 都市再生整備計画に記載はないが実施した

B : 実施事項（※Aで、アまたはウに該当する場合に記入、イの場合には「なし」と記入）

事業実施において、リース作品の設置・現場見学会・地元商店会活動支援・地元自治会への事業進捗報告を行い、住民参加を図った。

・リース作品の設置

事業区域内の伐採材を活用し、住民参加により壁面アート作品（リース作品）を作成し、地域の歴史を残すことができ、地域住民の愛着のある作品として2箇所に設置した。

・現場見学会（3回）

地域の子供たち向けに、建設機械、鉄筋、基礎地盤等に直接触れる場を設け、建物や建設現場への関心をもってもらう機会となった。再開発ビルの上棟時には、最上階から自分の住んでいる街を見渡してもらい、事業成果への理解を図った。

・地元商店会活動支援

地元商店会へ事業区域内の用地を一時的に開放し、地域のコミュニケーションの場として活用。

・地元自治会への事業進捗報告

月に1度地域で実施されている自治連合会定例会に出席し、事業進捗報告を行い、事業への理解を図った。

C : 事後評価時の確認方法

①対 象 事業実施に関連した住民参加の実施状況について確認する。

②時 期 交付終了年度（平成25年6月）

③確 認 先 横浜市住宅供給公社

④確認方法 市街地再開発事業の施行者にヒアリングを行い、確認する。

まちづくり活動の実施状況

A : 都市再生整備計画への記載状況および実施状況

- 都市再生整備計画に実施することを記載した

	<input checked="" type="checkbox"/> 都市再生整備計画に記載しなかった <input type="checkbox"/> 都市再生整備計画に記載はないが実施した
B : 実施事項（※Aで、アまたはウに該当する場合に記入、イの場合には「なし」と記入） なし	
C : 事後評価時の確認方法	
①対象	
②時期	
③確認先	
④確認方法	

(6) 原案の公表と評価結果(最終)の公表		
	原案の公表	評価結果(最終)の公表
①時期	平成 25 年 11 月	平成 26 年 3 月
②実施主体	都市整備局企画課	財政局公共施設・事業調整課
③公表方法	ホームページに掲載し、都市整備局企画課、都市整備局市街地整備推進課において閲覧による公表を予定している。期間は 2 週間とする。	ホームページに掲載し、財政局公共施設・事業調整課、都市整備局企画課、都市整備局市街地整備推進課において閲覧による公表を予定している。公表期間は 1 年間とする。フォローアップを実施する場合にはフォローアップ結果の公表も 1 年間とする。

(7) 評価委員会		
①	②	③
①時期	平成 25 年 11 月	
②実施主体	財政局公共施設・事業調整課	
③設置・運用方法	学識経験者や有識者からなる 3 人を委員とする横浜市都市再生整備計画事業評価委員会において、まちづくりの観点から都市再生整備計画の事業評価を審議する。	

(8) ものの(1)に該する開示申請の取り扱い		
①	②	③
①聴取方法	10~11 月に評価委員に事前説明を実施する予定です。	

※ (3) ~ (6) の検討以外に市町村で任意に有識者から意見聴取を予定する場合に記入

(9) 預算措置の状況		
①	②	③
①予算措置の状況	<input type="checkbox"/> 費用は発生しない <input checked="" type="checkbox"/> 費用は発生するが、予算措置を講じている <input type="checkbox"/> 費用は発生するが、予算措置は講じていない <input type="checkbox"/> その他 ( ) )	

都道府県名	神奈川県
市町村名	横浜市
地区名	長津田駅周辺地区
計画期間	平成 21 年度～平成 25 年度
作成者	部署 横浜市都市整備局市街地整備推進課
	役職 担当係長、担当
	氏名 藤田、木村
連絡先	T E L 045-671-4009、2678
	F A X 045-664-7694
	E-mail tb-seibisuishin@city.yokohama.jp